

2014年エルサルバドル大統領選挙¹を概観して

笠原 樹也



決選投票後、支持者に対し勝利宣言をするサンチェス・セレンFMLN 候補（中央左）とオルティス同副大統領候補（中央右）
 （出典：La Prensa Gráfica, 17 de marzo, 2014, p. 8）

はじめに

エルサルバドルは、1992年の内戦和平合意以降、着実に民主化を進めてきた。2013年までに、内戦終結後初めての政権交代を含め、4度の大統領選挙が平穏裡に実施された。一方、このような民主主義体制の安定とは対照的に、近年、国内の政治、社会、経済には深刻な問題が見られる。例えば、国会では、それぞれ約3割の議席をもつ2大政党である与党「ファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）」及び野党第一党「国民共和同盟（ARENA）」が左右のイデオロギー対立²に固執し、法案審議や最高裁判事を始めとする重要ポストの選出などの停滞が頻繁に生じている。また、経済は、1%台の低成長が続き、公的債務も対GDP比50%を大幅に超えるなどの深刻な状態にある。治安面でも、青少年凶悪犯罪集団「マラス」による殺人や恐喝が横行しており、国民生活を脅かしているだけでなく、経済成長の大きな阻害要因ともなっている。これらの問題は、短期間で改善される見通しがなく、14年以降もエルサルバドルが国を挙げて取り組むべき最優先の課題と見なされている。

上記を背景に、14年2月、内戦和平合意以降5度目の大統領選挙が実施された。その結果は、同年3月の決選投票にもつれ込み、さらには決選投票でも候補者の得票率の差が約0.2%（6,364票）の僅差となるなど、

まるで停滞状況にあえぐエルサルバドルを象徴するかのようであった。

大統領選挙の注目点とその結果

（1）今次大統領選挙の注目点

今回の大統領選挙では、第一に、与党FMLNによる政権維持か、それともARENAの復権かという点に注目が集まった。FMLNは、補助金政策や社会プログラム等の貧困対策に力を入れ、高い人気を誇る現フネス大統領の後継者として、低所得者層を中心に支持を得ていた。一方、フネス政権が抱える治安問題や経済不振・財政問題を打開できるかという点に疑問を呈されている中、財界と良好な関係にあるARENAを支持する層も根強く存在しており、両政党の支持率は拮抗していた³。

また、第二に、ARENAから除名されたことで同党との関係が悪化しているサカ前大統領の立候補がどの程度大統領選挙の結果に影響を与えるかという点も注目された。サカ前大統領は、そのカリスマ性や根強い国民人気から、内戦終結後の大統領選挙における初めての有力な第3候補として注目を集め、2013年2月、ARENA離党議員による政党「国民統合のための大連合（GANAN）」を中心に結成された選挙連合「統一運動（UNIDAD）」から同大統領選挙への立候補を表明することとなった。

（2）一次投票（2月2日）－FMLNの着実な選挙戦略がもたらした予想外の大差－

今回の大統領選挙では、サカ前大統領という第3候補の出現により、一次投票では決着がつかず、上位2候補による決選投票にもつれ込むとの見通しがあつた。また、FMLNのサンチェス・セレン候補とARENAのキハノ候補が接戦で、決選投票に進むと予想されていた。しかし、一次投票の結果は、サンチェス・セレンFMLN候補（48.93%）、キハノARENA候補（38.96%）、サカ前大統領（11.44%）であり、FMLN

候補と ARENA 候補が決選投票に進むことにはなったが、予想外の得票差が生じた⁴。

この一次投票結果については、FMLN による①低所得者層を中心とした着実な支持固め、②失点をできるだけ犯さないようにする選挙戦略、③人気の高いフネス大統領との協力が挙げられ、また、それとは全く対照的な ARENA の選挙活動の失敗も一因となった。第一に、FMLN は、12 年 3 月の国会議員選挙及び全国市長選挙において ARENA に敗北した後、早々に党生え抜きの指導者であるサンチェス・セレン候補を大統領候補に擁立して党内の結束を固め、一丸となって大統領選挙を戦う体制を整えた。そして、フネス政権の低所得者向け社会プログラムなどの成果を積極的にアピールし、受益者を中心に FMLN であれば次期政権でも恩恵が得られるというイメージの定着を進めた。第二に、FMLN は、内戦ゲリラ時代からの指導者であり国民の中に強固な反対者層を有するサンチェス・セレン候補が失点とならないように、単独で選挙キャンペーンの前面には立たせず、党内穏健派のオルティス・サンタテクラ市長を副大統領候補に据え、常に二人揃って国民に訴えかけることで、サンチェス・セレン候補に対する国民の忌避感情を薄める戦略を採った。さらに、第三に、FMLN は今回の選挙でネガティブ・キャンペーンをほとんど展開せず、フネス大統領が ARENA に対する批判や非難を一手に担った。これにより、FMLN は、ネガティブ・キャンペーンを行うことで一部の国民感情を逆なですることなく、自党の良いイメージと穏健化をアピールすることができた。

(3) 決選投票 (3 月 9 日) - ARENA の劇的な支持の回復による大接戦 -

一次投票でサンチェス・セレン FMLN 候補がキハノ ARENA 候補に大きな得票差をつけたことから、決選投票での FMLN の勝利は確実視されていた。しかし、決選投票では、再び事前の予想を覆し、得票差が僅か 0.22% (サンチェス・セレン FMLN 候補: 50.11%、キハノ ARENA 候補: 49.89%) となる大接戦となった。

ARENA が決選投票で大幅に支持を回復した要因としては、ARENA 執行部が、一次投票での敗北を受け、自党の国会議員や市長を始めとする有力者に協力を求め、また、敗北に危機感を覚えた有力者側も積極的に協力したことが挙げられる。ARENA は、一次投票での敗北を経てようやく党内の結束を固めることに成功

し、従来からの固定票や右寄りの有権者の獲得に精力を集中させた。その結果、一次投票の投票率が 09 年大統領選挙の約 63% を大きく下回って約 55% となったのに対し、決選投票の投票率は約 61% となり、その上昇部分の多くが ARENA の得票となった。

表 1 2014 年大統領選挙結果

	一次投票		決選投票	
	得票率	得票数	得票率	得票数
FMLN	48.93%	1,315,768	50.11%	1,495,815
ARENA	38.96%	1,047,592	49.89%	1,489,451
UNIDAD	11.44%	307,603		
PSP	0.42%	11,314		
FPS	0.25%	6,659		
有効票	100.00%	2,688,936	100%	2,985,266
白票・無効票・その他		52,138		31,692
投票数		2,741,074		3,016,958

2014 年大統領選挙で表面化したエルサルバドル政治の特徴

(1) 第 3 候補の影響力の限界

有力な第 3 候補として注目されていたサカ前大統領は、サンチェス・セレン FMLN 候補やキハノ ARENA 候補が保有する 2 大政党の組織票に匹敵するだけの浮動票を確保できると期待された。しかし、実際には、選挙キャンペーン期間におけるサカ前大統領の支持率は伸び悩み、支持母体である UNIDAD の組織票に少し上乗せした程度にとどまった。結局、今回の大統領選挙における第 3 候補としてのサカ前大統領の影響力は、決選投票の実施に繋がったものの、2 大政党である FMLN 及び ARENA の組織動員力に及ぶことはなく、限定的なものであった。

(2) 根強い左右対立

今回の大統領選挙では、2 大政党が依然健在であることに加え、両者を中心とする根強い左右対立も浮き彫りにした。一次投票で思わぬ劣勢に立たされた ARENA が選択した戦略は、党内及び右寄りの有権者の結集であり、左派政権の急進化に対する有権者の恐怖心の扇情であった。ARENA 執行部は、決選投票直前の支持者との集会において、マルクス主義を掲げる FMLN と相容れることはできないと主張し、また、右派寄りの財界も、FMLN 及び同党が関与する「エルサルバドル ALBA 石油」⁵ への批判を繰り返した。そして、決選投票における ARENA の回復は、このような左右対立の扇動が依然有効であることを明らかにした。

おわりに

2014年3月16日、選挙管理最高委員会（TSE）は、全ての開票手続きを終了し、今回の大統領選挙におけるサンチェス・セレン FMLN 候補の勝利を発表した。しかし、僅差での決選投票結果に対し、ARENA や同党を支持する財界のグループは、フネス政権やその影響を受けたとされる TSE に対する不信感を表明し、票の数え直しを求めるなど敗北を受け入れない姿勢を示している⁶。エルサルバドルでは、深刻な政治、経済、社会状況を克服する上で国内の様々な対立構造を障害と捉え、諸問題の解決に向けた国民合意の必要性が訴えられており、2013年11月には、FMLN を除く今回の大統領候補4名により、選挙後に国民合意を推進することについての同意書に署名が行われた。また、FMLN も、一次投票後の14年2月下旬以降、国民合意の必要性を公言している。特に、決選投票で有権者の約3割の支持のみで勝利することになった次期 FMLN 政権にとって、政権運営を円滑にし、フネス政権から引き継がれる財政赤字や債務問題、治安などの懸案事項に取り組むためには、同じように有権者の約3割の支持を集めた ARENA や財界との合意は最優先課題である。ARENA による選挙結果に対する反発により今後の国民合意形成は容易ではないというのが現状であるも、可能な限り早期に選挙結果に関する問題が決着し、エルサルバドルの将来に向けた議論が行われることが期待される。

（本稿は、著者個人の見解に基づくものであり、外務

省並びに在エルサルバドル日本国大使館の立場や見解とは一切関係ない。）

（注）

- 1 大統領及び副大統領がセットで立候補。全国1区の直接選挙であり、一次投票にて有効票の過半数を獲得する候補がない場合は、上位2名の間で決選投票が行われる。次期大統領の任期は、2014年6月～19年5月までの5年間。
- 2 エルサルバドルでは、政治色を示す言葉として「左」「右」が広く一般的に使用されており、FMLN は「左」を代表する政党として、ARENA は「右」を代表する政党として位置づけられている。また、世論調査において右寄りを自認する国民は35.9%であり、左寄りを自認する国民は26.7%である（数値は2014年1月7～12日に実施されたLPG DATOSの世論調査結果）。
- 3 大統領選挙に関する国民の投票行動調査結果（数値は同上）。FMLN：33.3%、ARENA：30.1%。
- 4 各候補の得票率は有効票（総投票数から白票・無効票・その他を差し引いた数）を100%とした値。決選投票の得票率についても同じ。
- 5 エルサルバドル ALBA 石油は、エルサルバドルのペトロカリブ協定への加盟が進捗しない中、同協定の恩恵を得るため FMLN 系の地方自治体連合が中心となって組織した企業である。FMLN への資金提供などの噂があり、近年急速に事業を多角化していることから、財界との関係が悪化している。
- 6 本稿は、2014年3月17日時点の公開情報を下に構成されている。その後、ARENA は、3月26日、国内の司法プロセスを尽くしても全票数え直しの要求が認められなかったことを受け、決選投票結果を受け入れ、次期サンチェス・セレン政権との国民合意の形成を目指すことを表明した。

（かさばら たつや 在エルサルバドル日本国大使館二等書記官）